

GAP(ギャップ)とは？

Good Agricultural Practice

直訳すると“良い農業のやり方”

「農業生産工程管理」とも呼ばれています

食品を扱う農業従事者には、数々の守るべき法律や法令があります。たとえば……



食の安全に関して

- ・農薬取締法
- ・食品衛生法 など



環境保全に関して

- ・廃棄物の処理および清掃に関する法律
- ・地力増進基本指針 など



労働安全に関して

- ・労働者災害補償保険法
- ・消防法 など



農業生産全般に関して

- ・種苗法
- ・農業現場における知的財産取扱指針 など

しかしながら、
これらを全て細かく理解することは、大変困難です。
これらを解決し、
農場を改善しようという取組みがGAPです。

GAPに取り組むと

次のような効果が期待できます

- 農業経営の改善や効率化
- 食品の安全性向上
- 環境保全
- 労働安全の確保



GAP 教育プログラムの実践型実習を行うことを目的として、宮崎大学農学部附属フィールド科学教育研究センター木花フィールド（農場）は2011年12月に青果物を対象品目としてJGAP認証を取得しました。大学農場としては、日本初です。また、2012年12月には穀物でも認証を取得したことで、全ての学生実習は、JGAP認証圃場で行うことができるようになりました。

2013年11月には、米を対象品目としてGLOBALG.A.P.の認証も取得しました。これも日本の大学では初めてのことです。

本学農学部では、今後、これらの認証を学生教育へ活かしていく予定です。



GAP事業推進室



〒889-2192

宮崎市学園木花台西1-1 宮崎大学農学部 N708

PHONE/FAX : 0985-58-7165

E-mail : muigap@cc.miyazaki-u.ac.jp

URL : <http://www.cc.miyazaki-u.ac.jp/muigap/>

特別経費プロジェクト

International GAP（国際的適正農業規範） 対応の食料管理専門職業人の養成



宮崎大学農学部
Faculty of Agriculture, University of Miyazaki

International GAP（国際的適正農業規範）対応の食料管理専門職業人の養成

～国際標準適正農業規範（GAP）対応教育モデルプログラムの開発とそれに基づく食料管理者育成実践教育の展開～

日本有数の食料生産地帯・宮崎で
地域産業を基盤としたオンリーワンの教育を！

本事業の目的

宮崎大学は、GAP について理解し、
食料の安全管理に必要な専門知識と実務を
有した人材を養成することを目的として、

【1】実践型教育プログラムの開発

【2】教育の質の保証

の2つの課題に取り組んでいます。

期待される成果

- GAP に対応した総合的な学習体系の整備
- 宮崎大学の特色ある教育プログラムの
- 国内外への発信
- 農業法人等におけるリーダーの育成
- 協力機関と連携した就職支援
- 国際標準の GAP 策定に貢献
- GAP 取り組みへの支援

【1】実践型教育プログラムの開発

- ① GAP に対応した人材育成の基盤整備
 - ・ 附属農場の GAP 認証取得
 - ・ GAPハウス（温室）、質量分析計などの教育のための設備の充実
 - ・ 教育プログラムの開発 ※
- ② GAP の情報収集・発信
 - ・ 先進企業及び海外視察
 - ・ 学内外、地域等へホームページ・ニュースレター等での情報発信
- ③ GAP の意識普及活動
 - ・ 食の安全・安心に関する市民公開シンポジウムの開催

※GAP教育プログラム

【GAP コア科目】

GAP 指導員講座および農業技術者倫理を開講

GAP 概論、インターンシップおよび GAP 認証農場での実習を実施

【GAP 関連科目】

植物生産環境科学の既存科目より

食の安全と品質向上・環境保全・労働安全・農場経営
と販売管理に関する科目

GAP コア科目 + GAP 関連科目
で教育プログラムを構成



GAP を体系的に
学ぶことができる！



【2】教育の質の保証

- ① 教育ポートフォリオの導入
- ② GAP に関する教職員向け研修の実施
- ③ テレビ会議システム等を利用した教育



教職員向け研修



GAPハウス（温室）での実習

学外の機関との連携協力による
GAP 実践教育を展開することにより、
GAP に精通した、食の安全管理専門職業人を養成します。